令和６年度浦安市教育委員会 12 月定例会会議録

浦安市教育委員会

令和６年度浦安市教育委員会 12 月定例会

Ⅰ．日　　時　　令和６年 12 月５日（木）

開　会　　午後３時 00 分

閉　会　　午後３時 48 分

Ⅱ．場　　所　　文化会館　３階中会議室

Ⅲ．進　　行　　教育長　　船橋　紀美江

Ⅳ．出席委員　　教育長職務代理者　　宮道　力

委員　　吉野　則子

委員　　影山　純二

委員　　佐藤　勇人

Ⅴ．出席説明者　　教育次長　　田中　健一

教育総務部長　　大塚　一樹

教育総務部次長　　落合　幸一郎

教育総務部技監　　泉澤　一欽

教育総務課長　　宇田川　順子

教育政策課長　　小池　康裕

教育施設課長　　内山　達夫

学務課長　　鳥海　勉

指導課長　　村上　陽子

指導課主幹（教育センター所長）　　青山　陽子

保健体育安全課長　　峯崎　泰利

千鳥学校給食センター所長　　本沢　誠

生涯学習部長　　近藤　敏彰

生涯学習部次長　　北嶋　純代

生涯学習課長（青少年センター所長）　　斉藤　恭一

生涯学習課主幹	島本まり子
生涯学習部副参事(市民スポーツ課長)	本川　昇
郷土博物館長	島村嘉一
高洲公民館長	佐藤良平
中央公民館長	増田丈巳
堀江公民館長	菅原　満
富岡公民館長	原　早苗
美浜公民館長	佐藤栄一
当代島公民館長	高梨誠二
日の出公民館長	北村章代
中央図書館長	森田志織
保育幼稚園課長	植草勝広
青少年課長	佐藤優子

Ⅵ. 傍　聴　人　　２名

Ⅶ. 案　　件

第１．会議録の承認

１．令和６年度浦安市教育委員会 10 月定例会会議録の承認について

第２．教育長からの一般報告

第３．審議事項

第４．協議事項

１．浦安市教育委員会管理職の任命について

第５．報告事項

１．教育委員会共催・後援行事一覧

２．令和６年度全国学力・学習状況調査等の結果活用について

３．第 44 回浦安市美術展開催報告

４．令和６年度上半期文化施設事業実績報告

５．浦安アートプロジェクト「浦安藝大」「浦安するシルバーカー」ワークショップ開催案内

６．浦安アートプロジェクト「浦安藝大」「Value of “GOGAN”」ワークショップ開催案内

７．浦安アートプロジェクト「浦安藝大」「イス to ベンチプロジェクト」ワークショップ開催案内

８．浦安アートプロジェクト「浦安藝大」アトレ新浦安での展示開催報告

９．浦安アートプロジェクト「浦安藝大」プロセス展開催報告

10.「第２次浦安市生涯学習推進計画・浦安市生涯スポーツ推進計画」（令和２年度～令和 11 年度）の進捗状況の中間報告について

11. 令和６年度「ふるさと浦安作品展」開催報告

第６．教育委員からの一般報告

第７．その他

開　　会　（午後３時00分）

船橋教育長　これより令和６年度浦安市教育委員会12月定例会を始める。

議事に入る。

議事の第１．会議録の承認である。

１．令和６年度浦安市教育委員会10月定例会会議録について、承認いただけるか。

（「異議なし」の声あり）

船橋教育長　異議がないので、１．令和６年度浦安市教育委員会10月定例会会議録については承認された。

なお、会議録の承認に当たり、会議録の署名を宮道委員にお願いする。

次に、議事の第２．教育長からの一般報告に移る。

私から報告する。

まず、11月９日に行われたはっぴい発表会について報告する。

はっぴい発表会は、市立小中学校の特別支援学級に通う児童生徒による発表会である。本年度も歌やダンス、劇など、各学校が趣向を凝らしたすばらしい出し物を披露し、一人一人が輝く場となった。

客席には、保護者の皆様をはじめ、先生方や同じ学校の友達など多くの人たちが応援に駆けつけ、一つ一つの出し物に温かい拍手を送っていた。

文化会館大ホールという大きなステージで、緊張感と闘いながら一生懸命自分を表現し、たくさんの人から拍手をもらった経験は、子ども達一人一人のこれからの大きな自信につながるものと思う。

終了後のアンケートにあった保護者の方の、「大きな舞台で頑張る我が子を誇りに思える瞬間である」という言葉が強く心に残った。改めて頑張った子ども達一人一人に拍手を送り、指導された先生方に感謝を申し上げる。

次に、園や学校への計画訪問について報告する。

２学期にも幾つかの保育園、幼稚園、認定こども園、そして小中学校を訪問し、保育、授業を参観してきた。

ついこの間訪問した保育園では、１歳児が二つのグループに分かれて活動していた。「動」と「静」で表現するならば、一つのグループは思い切り体を動かす「動」のグループ、もう一つは、お絵かきや塗り絵を楽しむ「静」のグループだった。１歳児とはいえ、自分で選び、活動しているとのことだった。興味深かったのは、園長先生に、今までの傾向として、この子たちが３歳、４歳になったときにも同じグループを選ぶのかと聞くと、ほとんどの子がそうであると言っていたことである。

１歳児の段階で、既に思い切り体を動かすことが好きな子、静かに一つのことに集中して活動することが好きな子に分かれるのだということを知った。こういう子ども達が小学生になったときに、一斉に全員が「動」の活動、あるいは全員で「静」の活動をという環境になったら戸惑う子もいるのだろうなというふうに感じた。

もちろん、あえて自分が好むこととは別の活動を経験することで、その子の可能性が広がる場合もある。いずれにしても、就学前から小学校への滑らかな接続の大切さを実感したところである。

幼稚園、こども園では、子ども達が遊びの中から多くのことを学んでいた。どの園においても、子ども達の活動する場の環境づくりがすばらしかった。

例えば、秋の木の実でものづくりをする活動では、たくさんのドングリや松ぼっくりが用意されていることで、子ども達は失敗を恐れずに、試行錯誤しながら遊びに没頭することができていた。小学校においても同じような活動をするが、こうした環境づくりは、小学校の先生たちにも大いに参考になるものだと思った。

小中学校では、ＩＣＴ機器の活用が進んでおり、子ども達が慣れた様子で操作をしていた。教師対児童生徒の一斉授業の場面より、子ども達同士が対話を通して学びを深め、広げていく場面を中心に設定されており、主体的、対話的で深い学びを目指した授業が展開されていた。

どの園、学校においても、先生たちが今日的な教育課題を踏まえ、子ど

も達の確かな学びのために努力している様子が分かり、頼もしく思った。

次に、生涯学習についての報告である。

11月30日に第１回浦安市クリテリウムを開催した。当日は、参加者を応援してくれているかのように、すばらしい天候に恵まれた。どの参加者も心地のよい秋の日差しを浴び、自転車によるロードレースを楽しんでいた。

パレードランには小さな子ども達の参加もあり、家族と一緒に海沿いのコースを気持ちよさそうに走っていた。午後の実業団によるレースは、さすがの迫力で圧倒された。

今回のコースは、浦安が誇る海沿いの絶景のロケーションだった。終わった後に参加者の方から「楽しかった。またここで開催してほしい」という、うれしいお声がけもいただいた。

11月には、各公民館で地域交流会を行っている。日頃活動しているサークルの皆様の作品展示や演技発表など、どの公民館においてもたくさんの方々の参加をいただき、盛況だった。近隣のこども園や小中学校の子どもの作品を展示したり、吹奏楽部が演奏したりと、学校と連携を通して交流会のより一層の充実を図る公民館も多くあった。

たくさんのお客様を前に生き生きと演技発表される方々の様子から、公民館が市民の皆様にとって大切な社会教育の場所であることを改めて実感した。これから地域交流会を開催する公民館もあるので、ぜひたくさんの皆様に御参加いただきたいと考えている。

早いもので、今年も残すところ、あと１か月足らずとなった。市立の幼稚園、こども園、小中学校は12月24日から冬休みに入る。子ども達には、家庭や地域でこの時期にしか経験できないことを経験し、何より安全に過ごしてほしいと願っている。

以上で、私からの一般報告とする。

次に、議事の３．審議事項に移るが、本日の上程はない。

次に、議事の第４．協議事項に移る。

協議事項１．浦安市教育委員会管理職の任命についてを議題とする。事務局より説明を求める。

宇田川教育総務課長　浦安市教育委員会管理職の任命について、説明する。

教育委員会の職務権限の一つに、「教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること」が規定されている。

本件は、令和７年４月１日付の浦安市教育委員会管理職職員の人事異動の調整を行うに当たり、事前に教育委員の皆様からの意見を伺うために協議事項として上程するものである。

参考として、令和６年度の職員配置表を添付している。

船橋教育長　ただいま説明がなされた浦安市教育委員会管理職の任命について、意見を伺う。いかがか。

影山委員　どこまで範囲になるのか確認したい。まず、ここで言う管理職の任命というのは、教育委員会の組織も含むし、小学校、中学校、幼稚園も含むということでよろしいか。

宇田川教育総務課長　教育委員会事務局の課長補佐級以上の職員、また、公民館長、それから、幼稚園、こども園の園長などへの意見をいただきたいと考えている。

影山委員　小中学校がなくて園があったので、少し迷ったところであった。

船橋教育長　小中学校は県費の任用職員であるため、このようになる。

影山委員　基本的な考え方として、劇的な変更は避けていただければというのが一つである。当然、人事なので流動性がなければいけないのは確かだと思う。ただ、その際に、劇的に変わるというよりは、少しずつ変わっていっていただければと思う。

船橋教育長　委員のおっしゃるとおり、全てが変わってしまうと、これまで積み上げてきたものが踏襲されない場合があるので、ここは貴重な意見として伺い

たいと思う。

ほかはいかがか。

宮 道 委 員　いくつかお話しさせていただくが、物事は大体現場で起こっているので、現場の意見がしっかり反映できて、連携が取れるような体制で、年齢構成も含めて検討いただけるといいと思う。

また、現在公民館長に、校長経験者というか教職経験者の方も何人か配属されていると思う。校長時代は恐らくすべてが自分の意見を中心にやれたことが、公民館長になると、また少し状況が変わっていると思う。現場を知らないので違うかもしれないが、いろいろ予算面なども相談しながら業務を行っていると思う。また、今、浦安市はコミュニティ・スクールを推進していこうとしているので、ぜひその辺りを大きな目で見ていただいて、実際にコミュニティ・スクールになって、浦安型のコミュニティ・スクールがこういうふうな形で社会教育と連携してできるといったような、そんな形で取り組んでいただけるといいと思った。

もう一つは、これは少し今回の件と違うのかもしれないが、学校現場にいる事務の方というのは、市からの採用の方であったか。

船 橋 教 育 長　学校の事務職員には、県の職員と、市が採用する会計年度任用職員もいる。

宮 道 委 員　市では事務補助員として募集していると思うが、学校の先生方の事務負担が大きな負担だという現状があると思うので、その辺りも上手くできるといいなというのを、少し協議事項と離れてしまうが、お話しさせていただいた。

船 橋 教 育 長　教育委員会は、いわゆる教員職と行政職とが共にいる。今、宮道委員からもあったとおり、教員職の職員には、やはり現場に一番近いという立場で、現場の代表としての意見も、施策の面も進めてほしいと私も考えているところである。

一方で、行政職の職員には、やはり行政としてのこれまで積み重ねてきた経験から助言をもらっている様子もあるので、両方の良さを備えて教育行政を進めていく必要があると考える。いずれにしても、現場の声を聞くというのは、とても大切なことだと思う。

また、先生方の負担の軽減という視点も、人事の中にはやはり盛り込んでいかなければいけないと強調していこうと思う。

ほかはいかがか。

それでは、教育委員会の意見として、市長部局の人事担当部署に要望していきたいと思う。

次に、議事の第５、報告事項に移る。

報告事項については、お配りした資料をもって報告とさせていただく。

報告事項について、何か質問、意見等あるか。

宮 道 委 員　全国学力・学習状況調査結果概要で、最後のページの質問調査がある。真ん中以降、「個別最適な学び」と「協働的な学び」というのがあって、「どちらかといえば当てはまらない」とか「当てはまらない」という子どもと、「当てはまる」という子どもの成績の比較があるが、「どちらかといえば当てはまらない」とか「当てはまらない」と答えた子ども達に対して、どういうふうに改善したらいいのかを考えていく必要があると、感想として思った。また、なぜ協働的な学びができないのかということも、現場の先生方中心に日々検討されていると思うけれども、そういった子ども達が減るような努力を、やはり意識を持ってやらないといけないのだなと、私が見て思ったことが１点目である。

２点目は、７ページの美術展であるが、これはいろいろな考え方があると思う。第44回ということなので、ずっと継続されてきていると思うが、今、東京藝大と「浦安藝大」といった形で連携してやっているが、あえて別にやっているというのも１つの方策だとは思うが、市民が主導して開催するのか、市民が参加して開催するのか、そういった意味も含めると、大きくアートプロジェクトの中の、藝大とは関係ないかもしれないが、市民主導型のものとして位置づけるといったこともできるのではないかと思っ

た。そこに、できたら学校の美術部とか、無理強いをすることではないが、交流を図りながら、ここで表彰を受けられている方々に何か解説とかレクチャーを学校でしてもらえるような機会ができるのかどうか、そんなこともコミュニティ・スクールの中などで、今後考えていってもいいかなと思ったのが２点目である。

最後、３点目は、生涯スポーツの推進計画であるが、これから高齢者がどんどん増えていくので、病院に行くのではなくて、こういった公民館であるとか生涯学習の場に、高齢者が参加しやすいような流れができるといいなと。質問ではないが、三つほど感想、思ったことを述べさせていただいた。

船橋教育長　全国学力・学習状況調査について、指導課長、いかがか。

村上指導課長　各学校では、それぞれ自分たちの学校の子ども達の実態を把握する中で、どのようなところの改善が必要かという評価を、学年関係なく検討しているところであるので、ぜひ意見を参考にしながら、各学校で課題への取組について促していきたいと思う。

吉野委員　美術展について、少し追加する。

私は３回か４回行っているが、毎年代わり映えがしなくて、あまり来場者がいない、また、レイアウトも作品があちこちにあって、すごく見にくいと思う。出品している方も、昨年度と今年度の数を比べてみると分かるが、ほとんど同じである。恐らく出品している方はほぼ同じではないかと思う。

今、宮道委員が言われたように、学校の美術部とか、小学生の作品とか、そういう方の作品も一緒に展示すれば、もっと多くの方が集まるのではないかと思うけれども、そのような工夫をしてみてはいかがかなと思った。

斉藤生涯学習課長　確かにいろいろな意見をいただいており、今年でいうと洋画が別の部屋になっていたので、分かりづらいというような話があり、来年はできる

範囲で、展示の工夫をしたいと考えている。

また、高校生に対して、市内４校に出展の依頼を個別にしており、具体的には今、資料がなくて名前等はすぐに出ないが、高校生が何人か受賞されていたかと思う。そういった若い人材の掘り起こしというようなことも行っている。

小学生の作品展と一緒に開催できるかどうかというところについては、やはり市の美術展として、市の美術協会等にもいろいろ意見をいただきながら運営について決めているので、浦安藝大との連携についても、少し考えさせていただければと思う。

船橋教育長　こども作品展は、小中学校に加え、保育園、こども園も含めて行っており、同じ場所で開催されたが、大盛況であった。やはり子ども達の作品の魅力と、あと、保護者の方々が来て、作品と一緒に写真を撮っている様子があった。市美展のほうは、高校生が受賞しているのも見受けられた。

先ほど宮道委員からあったように、表彰者の方々の中には、例えば書道では、ゲストティーチャーとして小学校で子ども達に書き初めを教えてくださっている方もいて、また、卒業証書の筆耕であるとか、そういうことをされている方もいらっしゃるので、確かにこういう方々が学校教育とつながっていくというのは、意義のあることだなというふうに思う。

また、学力・学習状況調査については、やはりおっしゃるとおり、この後どう分析して、次にどう生かしていくかというところが大切になってくるかと思うので、学校ごとの分析をしっかり行いながら、授業改善につなげていきたいと考えている。

では次に、議事の第６．教育委員会の一般報告に移る。

吉野委員　寒くなってきて、インフルエンザが増えてきたという話について、うちのクリニックでもよく見かけるようにはなった。ただ、これから多分まだ増えていくと思うので、皆様できることは決まっているのだから、手洗い、うがい、できれば咳をしている人はマスクをしていただくということである。あとは、基礎免疫力を高めたほうがいいので、生活習慣がしっかりし

た生活をして、よく食べ、よく眠りという生活をしていただきたいと思う。子ども達にもそう勧めて、例えば給食は残さないようになどを伝えていただけるといいかもしれない。

それから、２番目として、市の教育委員会の場で言っても変わりづらいこととは思うが、最近、日本の教員の中で社会科の教員が非常に少ない、特に女性の教員が少ないのだという話があったので、少し報告させていただきたいと思う。

日本の教員の中での女性の教員の話をしているのだが、女性の教員の比率は国際的に見ても低く、特に社会科を教える教員は、中学の主要５科の中で一番低いようで、その社会科の教員の中で見ても、男性が５、女性が１ぐらいの比率ということである。女性の社会科の先生はとても少ない。特に公民の先生になる人はすごく少ないらしい。だから、世の中の動いている状況とか、それから、男女共同参画だとか女性の人権とか、そういうことを教える科目に携わる女性が少ないということで、やはり少し今までの日本の、男性が主であるというようなものを引きずりながら教えている感じがあるのではないかというふうに述べているような記事だった。

なるべく社会科の先生や講師として女性が携わってくれると、きっと将来そういう職業に就きたいという女性が増えて、世の中のためにもなるのではないかと思ったので、ここで話をさせていただいた。

それから、もう一点、最近頻繁に不登校の話が新聞にも載るし、テレビでも放送されるが、不登校の児童生徒が約34万人になったというような話も聞き、その保護者が子どものために無職になってしまうということで、そういう人たちを補助する市町村も出てきたというニュースがこの前あった。

学校に行けなくなってしまった方に対する施策というのは、どんどん出てきていて、それはいいことである。一方で、学校に行けない方が34万人で、そのほかの方は行けているからいいという話ではないと思う。登校している方が、では果たして満足しているのかというと、そうではなくて、義務教育だから、ただ行けているだけだとしたら、それは教育としては魅力もないだろうし、さっきの社会科の話ではないが、そういう良い先生に

なろうという方も多分少なくなるのではないかと思う。

今、学校に行けている方たちの教育もしっかり見直していてほしいと日々思っている。言うべきはここではないかもしれないが、少し言いたかったので言わせていただいた。

船橋教育長　まず、学務課長、浦安市は中学校の社会科の教員として、女性は少ないのか、やはり５対１ぐらいか。

鳥海学務課長　資料が手元にないので割合はすぐには出ないが、全くいないわけではない。ただ、一昔前は社会科の講師の方などは、たくさんいたようなイメージがあったが、今年度は、社会科の講師を探すのにすごく苦労しているのは事実である。今ちょうど校長先生ぐらいの年代の方は、社会科の免許を持った先生たちが大勢いるのだが、やはり年々少しずつ減ってきているのかなというのは、感覚的には感じるところである。

船橋教育長　男女問わず、社会科の教員自体が減ってきている感じか。

鳥海学務課長　そのとおりである。そもそも社会科に限らず全体的な数が少し減ってきている。

船橋教育長　また、不登校のお話が今あったけれども、学校にしっかり通えている子ども達への教育活動の充実というのは、本当に大切にしていかなければいけないところで、おっしゃるとおりだと思う。

不登校の子ども達にも、様々な選択肢の中でその子に合った支援の方法をしっかり探っていきたいなというところを、学びの多様化学校ができるからこそ、学びの多様化学校以外の場も含めて、その子に一番適切である場をしっかり見つけていきたいということは、教育委員会としても確認をしているところである。

影山委員　今日の話だが、スーパーマーケットに行った際に、職場体験の中学生が

ジャージを着ながら頑張っていた。それを見たときに、最近しばらくそういった姿を見ていなかったような気がして、コロナの影響で見る機会がなかったのかなと思った。コロナ渦が明けて、ようやくこうやって通常の授業になったのが喜ばしいことだと思った。ぜひ今後とも続けていっていただければと思う。

それと同時に思い出したのは、ちょうど高洲中学校ができるときに、職場体験できる場所に全くコネがないので、当時のＰＴＡ役員の方が一生懸命探し回っていたのを思い出した。

それを考えたときに、やっぱりこういう職場体験とかは、当然現場の先生方、その地域の方々の力、スーパーマーケットとか受け入れていただく方等、やはり地域に助けてもらって行えているのだなと思ったので、ぜひつながりをこれからも大事に､学校として維持していただければなと思う。

船橋教育長　職場体験、キャリア教育は、それぞれの学校で特色ある取組みをしているので、それこそコミュニティ・スクールの機能を生かして、地域の方々の協力を得ながら、地域の様々な職業体験が広がっていくといいなと思っている。

佐藤委員　来月、県外視察ということで部活動の地域移行、掛川のほうに学びに行く。この話をいただいたときに、僕自身がサッカークラブを回ってはいるけれども、学校の部活動は全然知らないなと思い至った。話に聞いたり記事を見たりして、学校の部活が大変だ、人数も減っているということを聞くが、実際分からないことだらけなので、市内の学校へ僕自身が行って、一緒にサッカーの部活動の時間を共に過ごすことによって、現状を知ることができるのではないかと思って、部活動への参加をお願いした。

保健体育安全課の職員と一緒に、11月と12月に市内の中学校に行かせていただいた。

ひとつの中学校のほうは、顧問の先生がサッカー経験者であり、指導実績もある方だった。部員は約30名。僕がグラウンドに入ると、多くの生徒たちが僕のほうに来て、本当に学生らしく大声で挨拶をしてくれた。そん

な中、やはり内気な生徒も何人かいるのだが、周りの元気な生徒に引っ張られる形で、照れながらも僕のところに挨拶してくれたのがすごく印象に残っている。

ウォーミングアップから全員がまとまって、大声を出しながら、ウォーミングアップやストレッチをしていた。練習の準備や片づけに、自主的に動いている生徒が多かったなというふうな印象が残っている。

この時期なので早く暗くなってしまったけれども、その後は体育館で練習を続けるということで、体育館に移動した。グラウンド整備の当番の生徒が何人かいて、その生徒のほうをずっと見ていたら、翌日に向けてしっかり校庭をならすという、トンボをみんなで一生懸命かけて、それが終わり次第、体育館に行ってサッカーの練習を続けるという、そんな光景だった。

また、クラブチーム、ブリオベッカ浦安のジャージを着て部活動に参加していた子がいたが、顧問の先生がクラブチームの練習時間まで受け入れているとのことだった。その顧問の先生に、なぜ受け入れているのか聞いたところ、部活の時間を一生懸命やってくれるからだと。挨拶もサッカーも一生懸命やってくれる、それは本当に周りの生徒にもよい影響を与えてくれているというふうに言っていた。

僕がこの中学校で感じたことは、やはり彼ら生徒にとって、部活動の時間が学校生活の最大の楽しみなのだと、そういうふうに強く感じた。

そしてまた、12月、別の中学校のほうに行くと、今度は顧問の先生がサッカー経験なし、野球が大好き、そんな顧問の先生だった。部員は13名。最初に僕がグラウンドに行ったときに、前回の中学校でもそうだが、顧問の先生のところにまずは挨拶しに行った。そのあと、生徒たちのほうに行ったら、何人かの生徒は挨拶に来てくれた。でも、それ以外の生徒は、どちらかというと遠くから見ている感じだった。

では、練習をやろうといったときに、準備のところも何をしていいか分からないという戸惑いを感じたので、僕は、では、こういうことをやろう、ああいうことをやろう、これが必要だから持ってきてというふうに言った。

また、攻撃と守備の練習が少しあったが、やはり守備をしたくないとい

う生徒がいた。それを受け入れてしまうチームスポーツは決していいものではないなと僕は感じた。指導者が、守備が嫌いな子だったら、守備をずっとするトレーニングメニューではなくて、攻撃も守備も切り替えられるトレーニングメニューにすれば、どっちも自然とやれるので、そういうメニューを思いついたら良かったのではと感じた。

部活終了後、顧問の先生に「僕は本心が聞きたいのでストレートに答えてください」と前置きしたうえで話を聞くと、サッカー部の顧問は苦手だと。でも、僕は顧問の先生が悪いとかどうとかではなくて、やはりこれが現状であって、「野球部の顧問をやりたいでしょうか」と言ったら、「ものすごくやりたい」と。なので、これはやはり僕らが変えていかなくてはいけないのではないかということで､改めて現状を知ることができたので、来月は掛川に行って多くのことを学んで、また持ち帰ってきたいなと思っているし、年内にあと２校ぐらい行けたらいいなというのと、年明けも残りの中学校、または小学校にも来てほしいという話も先ほどいただいたので、小学校にも行きたいと思っている。

船橋教育長　佐藤委員には、市の中学校の部活動に指導していただいているということで、大変ありがたく思っている。

今、現実的な課題というものが、佐藤委員に、実感として伝わったのではないかなと思っている。ずっと野球をやってきた先生がサッカー部の顧問となったときに、苦手かと聞いたらそちらかもしれないが、野球だったら自信を持って子ども達に伝えられるのにという思いも、きっとジレンマもあったのかなと推察するところである。

最近、地域移行という言葉は使わないようにしようと、地域展開という言葉にしていこうという流れになっている。一つは、地域移行と言うと、学校が地域に移行させて、学校からは丸投げというような印象を与えてしまうということから、地域展開だと思っている。

先ほど佐藤委員からもあったように、やはり部活が楽しみで学校に来ている子ども達は、それは部活動だからとかではなくて、学校の中で全てのことに対してそうだと思うが、算数の授業が楽しみだとか、国語のこの勉

強をするのが好きだとか、読書が好きだとか、そういう好きなものがある子たちの一人一人の好きな気持ちに応えていけるようにしていくことが求められていて、一方で、今のような指導者不足というか、そういう問題もある。だから、学校の役割というのは果たしつつ、やはり学校だけで解決できないことが増えてきているのだなということが、今の一番の課題だと思っている。

地域に丸投げするという方向ではなく、子ども達のそういう一つ一つの興味や関心をどう受け止めていくかという学校の役割は担保しつつ、地域の皆様の力を借りながらどう進めていくのか、私も掛川のほうでしっかり学んできたいと思った。

宮 道 委 員　私のほうから、少し今のお話も受けて、三つお話しする。

まず、佐藤委員のお話にもあったが、後半の中学校の生徒は恐らく、部活動って自分たちでどうやったら運営できるのかなと考えていると思う。なので、そこで関わっていただいた先生の話も出たけれども、本来、別にやらなくてもいいのかもしれないが、子ども達のために部活動に付き合って、そういった複雑な思いを持ちながらかもしれないが、場を提供してくれていることに、まずは感謝をしたいと思う。

確かに、自分の専門だと自信を持って教えられるということもあるし、私もハンドボールだったらどんと来いと思うけれども、そうではないケースも多々あって、ただ、それを子ども達がチームをどうやってマネジメントしていけばいいのだろうかと考えるのが、これは実はキャリア教育にもつながっていて、要は、将来ほとんどの方は、みんなチームで働くので、そういうことが今の場で学べるんだよというような側面での切り口でいけば、どの先生でも、部活動を経験していない先生でも、僕は顧問ってできると思うし、それでいいと思う。

専門的にやりたければ専門のところに行って極めていけばいいし、学校という場の中で、勉強だけではない、そういう人間関係、非認知能力も高められるような機会をうまく活用して、そこを先生方も頭にいれて、すでに釈迦に説法だと思うけれども、子ども達を支援していただけたらいいの

かなというふうに、今のお話を聞いて思ったのがまず一つである。

二つ目は、岡山県の広島に近いほうに矢掛町という町があるが、そこの学校が、中国地方で初めてセーフティプロモーションスクールの認証を受けるということで、今取り組んでいるところである。そこでＶＲを使った災害教育の授業をやるということで、ぜひ見に来てほしいとのことだったので、先月、２週間ほど前に見に行ってきた。

実際にＶＲを流しながら、１メートル40センチぐらいまで水が来たらどうなるのかとか、１年生、２年生は姿が見えなくなってしまうといったことを、ＶＲを使いながら体験するような授業をやっていた。その中で自助、共助、公助といったことも織り交ぜて授業を進めているときに、子どものぼそっとした意見から、はっと僕が思ったのは、そもそもの話であるけれども、やはり周りに挨拶をしないといけないと小学５年生の子が言っていた。「それ、何で？」と先生が聞いたら、「だって、両親は多分働いていて家にいない」と、「そのときにもし災害があって避難しなければいけないと思ったときに、近所の人に声をかけたり、一緒に逃げたりしないといけないと思っても、知らない人だったらやっぱり一緒には逃げられないのではないかな」と、素直な意見が出た。当然のことだなと思ったが、そういった観点からも、日々の挨拶や顔見知りになるということは非常に重要だということを私自身も思ったし、その辺りも含めて、僕も子ども達に会ったら大きな声で挨拶しようと改めて思ったというのが、二つ目である。

三つ目は、今日はクリテリウムのお話があったが、浦安の第１回ということで、交通安全キャンペーンといったものも一緒になさっていたようであるが、非常にいいことだと思った。

たまたまであるが、私のふるさとが愛媛の今治というところで、瀬戸内海に面したしまなみ海道があって、世界的なサイクリングの拠点である。自転車でまちづくりといったことに非常に力を入れているところで、自転車を通じたまちづくり協定みたいなもので、滋賀県の守山市と沖縄県名護市だったと思うが、協定を結んでいる。ここから先は勝手に私が言っていることであるが、浦安も何かそういう自転車を通じたまちづくりといったことも、一つ交流を深める意味でもあるのか、やってみたらどうかと思っ

た。自転車でいうと、私は岡山県にも縁があるのでお伝えするが、岡山にはももちゃりという制度があって、100円だったか１回乗るのに有料であるが、市内のいろんなところに拠点があって、その自転車を活用するといった、市内はできるだけ車を使わないようにしましょうといった仕組みとしてやっている。たしか浦安には自転車の貸出し制度はなかったか。

船橋教育長　ない。

宮道委員　都会なので難しいこともあるとは思うが、コンパクトな街なので、ガソリンを燃やすのでなくて、カロリーを燃やそうといったところで、こんな事業展開もできるのではないかと思ったという三つをお話しした。

船橋教育長　挨拶の話があったけれども、本当に挨拶は基本で、いわゆる凡事徹底の中の一つである。また、私は佐藤委員の後半に出てきた中学校の体育祭に行ってきたのだが、子ども達はとても元気があって、だからこそ、その部活の話を聞いたときに、少し、あれ意外だなというふうに思った。もしかしたら、どういうふうに部活を進めていいか分からないという思いもあったのかなと、今、宮道委員のお話を伺って思った。やはり子ども達は自分からできるようにしていくことが大切で、誰かが、要するにどの中学校にも野球部の顧問がいてサッカー部の顧問がいるわけではないから、これから大切なことは、自分でメニューを考えて、主体的に自信を持って動けるような体制をつくっていくということが大事なのかなと改めて思った。

実際に佐藤委員が現場に行ってくださったからこその指摘だっただろうし、また、その学校に学校訪問に行ったときも、子ども達はしっかり挨拶をしていたので、やはり自分で何をすべきなのかが分かると、子どもというのはもっともっと自信を持って動くのだなと感じた。

中学校に限らず小学校においても、そこはしっかりと校長先生たちとも情報を共有して、力を入れていきたいと改めて感じた。

それでは全体としていかがか。よろしいか。

では次に、議事の第７．その他に移るが、本日はその他の上程はない。

以上で、令和６年度浦安市教育委員会12月定例会を閉会する。

閉　　会　（午後３時48分）